
徒然なるままに、その日暮らし...orz

あるかであ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

徒然なるままに、その日暮らし：orz

【Nコード】

N2074U

【作者名】

あるかでいあ

【あらすじ】

筆者が日々の生活の中で感じたコトを、テキストに書くだけの作品です。

（前書き）（つまり、読んでも読まなくても良い部分）

とりあえず最初はやっぱり『ご挨拶』からでしょうか？

はじめましての方は「はじめまして」、そうで無い方は……多分居ないかorz当方『あるかदैいあ』と云います。

日々『妄想』を糧に生活してきて、「小説書いてみようかな」「なんて考えたのが数年前。コメディタッチの所謂『ラノベ』が好きなんですが、自分で書くこうと思うとすっげえカタい文章になっちゃって挫折しましたよ。

んで、今回は物語で無く自分の言葉で書いてみようかと、エッセイにしてみました。

「そんなもの『ブログ』か『活動報告』でやれ！」と言われそうですが、気に入らない方はどうぞ無視して下さいな。どうせテレビ見て思ったコトとか書いてるだけの、全くタメにならない作品ですの

で。
それでも読んでくださる方が居た場合の為に、『クスツ』とか『ニヤツ』とかして頂けるよう、精一杯頑張らせて頂きますので、どうか宜しくお願い致します。

くもしドラ式〜（別にデイスってるワケじゃ無いんだからね！！）

今更ですけどね、『もしドラ』ですよ。国営放送でオンエアされた再放送（スタート時期が一緒だから本放送？）も終わった事だし、実写映画も上映するみたいだから、タイムリーかな〜と思い書き殴ってみる事に…。

監督役が『大泉洋』さんらしいですね。『水曜どうでしょう』ファンとしては楽しみな反面、アニメ版を見ていた私には「あのクル系の監督を大泉さんがやるの？」と不安がイッパイであります…。そして不安な要素がもう一つ。ヒロインの二人をA Bの人が演じるそうですね？

実写映画化つてだけでもコケそうな予感でイッパイなのに、さらに主演に人気があるからってアイドルを起用するなんて…。別にA Bが嫌いな訳では無いんですよ？興味が無いだけで。ただ「役者でも無いのに…」って不安が凄いわけですよ！ゴイスーなワケですよ！！

けど『もしドラ』って作品のコトを考えると、この起用は妥当なのかなあとも…。

だって書籍の表紙がラノベみたいに可愛い女の子だったし、今回はアイドルを主演に使うし…。

これは何の役にも立たない二ト共を『萌え』でおびき寄せて経済学を叩き込む『美人局式英才教育』なのではないかと。

そう考えると作者さん凄いな〜と思うワケですよ。ダテにブルース・ウィリスみたいな頭してないな〜と。

今日はそんなトコロです。

「かわいそう」とか「残酷」だとか……（個人の感想です）

先日テレビで『ブタがいた教室』って映画を見たんで、そんな感じのコトを。

よく海外の動物愛護団体が「クジラを食べるのは可哀相だ」とか言ってるけど、彼等の『可哀相』の基準っていったい何だろうと私は思うワケですよ。

クジラは頭の良い動物だから可哀相なの？じゃあ、頭の悪い動物は可哀相じゃ無いの？

動物は生き物だから可哀相なの？じゃあ、植物は生きていないの？だから可哀相じゃ無いの？

仏教だかベジタリアンの一部の考え方だかちよつと忘れちゃったんですけど、芋とかの根っこの部分を食べるのは命の全部を食べる事になるからダメだけど、葉っぱとかは命の一部を分けて貰うだけだからオツケーって考え方が有るらしいですけど、それってどうなの？

また伸びてくる部分だから、人間で言えば『爪』とか『髪の毛』とかと一緒に事なの？けど、葉っぱとかを干切った所から病気になつたり枯れたりする事も有るし、どっちかって言うと『皮膚』ぐらいいには大事な部分なんじゃないかな〜と思うんだけど…。私は生きながら皮膚を剥かれるなんて絶対イヤなんだけど、それって『残酷』なんじゃ無いの？

そんなふうと考えてると「彼等はいったいどうやって生きてるんだろうか」なんて思うワケですよ。

結構前に「貴方はコレを見ても肉を食べられますか？」みたいなメッセージをネットで見かけた事が有るんですけど（スプラッタとかグロは苦手なんて見ませんでしたけど、どうやらトサツ風景らしいです…）、他人に自分の考えを押し付けるのはどうかな〜って思うんですけど。

『生きる』って事は、他の生き物から命を貰う事なんだってトコロを忘れずに、食べる前には料理を作ってくれた人や（自分でお金を出して無い、または自分で稼いだお金じゃ無い場合は）食べさせてくれる人、そして今から貰う命に感謝して『いただきます』を言う。食べ終わったら、同じく感謝をしながら『ごちそうさま』を言う。そういう『感謝』の気持ちさえ忘れなければ、何を食べても変わらないんじゃないかなあと私は思うワケです。

まあ、あくまでも『個人的な意見』なんですけどね…。
今日はそんな感じですよ。

〜暑い夏にはホラーです〜（リメイクされてるらしいよ？）

なんかライトな文章が書けなくて悩んでいます。あるかでいあで御座いますよ。

軽〜い話題にすれば変わるかなと、今回はゲームのお話です。

最近のホラーゲームと云えば『バイオハザード』や『龍が如く』の新作が発売されてますが（ゾンビは出てくるけど『ホラーゲーム』では無いかも？）、私のイチ押しของเกมは『スプラッタハウス2』です！

メガドライブでも発売されてたかもしれませんが、私がプレイしたのは駄菓子屋とかオモチャ屋さんでしたね〜。そのぐらい昔のゲームですが、素晴らしい作品だった事は確かです。

……なんか「けっ！レトロゲーム信奉者かよっ！」「って声が聞こえてきた様な気がします、とりあえず御存知無い方にゲームの説明をしますと、システムとしては至って普通の横スクロールアクションです。

がっ、しかし！主人公が恋人をさらった悪魔に対向するために呪いのアイテムを身に付けて戦うという、最近のアメコミ映画も真っ青のダークヒーローっぷりを見せつけ。さらに、そのアイテムがホットケーマスクという『某13日の男』のPakry……もとい、リスペクトで、パンチやキックそしてフィールドに落ちている『鈍』や『角材』を使って敵を倒すという暴れん坊加減の凄さ。倒された敵が「グシャッ」という妙にリアルな音を立て、不気味な粘液を残して潰れるという、現代のPTAが発狂しそうな程の制作スタッフのこだわり。

特にお気に入りだったのがアイテムの『角材』

フルスイングで敵を画面奥の壁に叩き付けた後のドロ〜って感じで壁を流れ落ちていく粘液や残骸がたまりませんでした。

その他にも、ライフの表示がリアルな心臓（当時のゲームではハートマークが並んでいた）だったり、ブラックユーモア満載の作品でした。

最近のゲームは絵が綺麗とか音楽が素晴らしいとかシナリオが最高なんてのを売りにしている様だし、それらが悪いと『クソゲー』と評価するなんちゃってゲーム通も居ますが、ゲームなんてプレイする人が何を楽しむかなんだし「はダメだ」とか「××のゲームはユーザーをバカにしてる」なんて言わなくても良いんじゃない？と私は思いますよ？

まあ、今日のあるかदैあはこんな感じですか？（？）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2074u/>

徒然なるままに、その日暮らし...orz

2011年10月5日00時28分発行